

川崎市総合計画市民検討会議 第2回全体会 意見シートのまとめ

分類	ご意見
会議の進め方について	<p>< 討議1（第1、第2部会の成果の共有と全体討議） ></p> <ul style="list-style-type: none"> 色々とよい意見が出ているが、どうやって具体的な取組案をまとめるかが課題（有識者会議と市民検討会議との対話の内容と仕組みを検討する必要がある） 有識者会議との連携をもっと実感できるようにしてほしい。市民も直接伝えたい。 限られた予算で総合計画にどれだけかけられるか分からないと具体的施策をイメージしづらいため、行革プランについても共有してほしい。 意見交換できる時間が短く、一方通行の意見になった。主旨に基づいた質疑応答ができるように進行してほしい。 市長が出席され、即答いただける機会だったので、もう少し発言いただけるとよかった。 <hr/> <p>< 討議2（防災・コミュニティ） ></p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に減災への取組を実行したいと思える会議だった。 重要かつ喫緊の課題であり、皆さんのご意見を拝聴でき本当に有意義だった。 大変有意義な時間だった。短かったが他の方の意見も聞けて、良い勉強になった。 時間は短かったが、充実した話し合いができた。議題が絞られていたので話しやすかった。 人命に関わる重要な防災というテーマにしては、討議時間が短かった。 やはり時間が押してしまい、少ない感じがする。 災害について危機感を持って話し合い、共通認識として再確認する良い機会を頂いた。 時間がもっと欲しい。昼食をはさんで夕方までやっても良いと思う。 活発な意見が出たが、やはり時間が少ない（本日の内容は1日かけてもよい） 会議の進め方はとても良いので、時間の少なさが残念。 やはり時間が少ない。課題を絞って掘り下げることも重要。
防災・コミュニティ分野について	<ul style="list-style-type: none"> 市（区）だけでやろうとせず、市（区）民と共同・協働すべき。 支援物資の確保について、他自治体との連携はどうなっているか具体的に知りたい。 町内会・自治会等のコミュニティによる相互扶助の強化が重要で、そのためには自治体による公認の防災に関するコーディネータ（リーダー）の指名・育成が必要。 市の防災関係のパフレットは立派だが、コスト高で配布先が限られるなら、要点を絞って薄くし、コピーでもいいのでコミュニティの協力で各戸配布すべき。 自助・共助においても想定外を無くせるよう、公助として指導してもらいたい。 広島のと砂災害を踏まえ、土砂災害危険地区の指定など至急の対応が必要。 改めて地域コミュニティの改革が重要と感じた。 情報の共有に街の掲示板の活用を提案したい。 仕事中に発災したときの就労者に関しても考えていく必要がある。 PRが広く行き届くよう工夫が必要（防災の資料を市民にもっと告知） 周辺自治体や県立高校生の活用も検討すべき。 市職員もBCP訓練をしているか気になった。 川崎市は地形により防災の取組が異なるため、被災場所によってとるべき行動が変わる。 地域住民が気軽に避難訓練に参加できる仕組みづくりを働きかけたい。 普段からの地域のコミュニケーション、高齢者や子育ての支え合いが災害時にも役立つ。これをどうやってつくり、多くの人に参加するかが課題。 コミュニティの再構築こそが重要だと改めて思った。 アナログの時代を想像する重要性も考えさせられた。
その他	<ul style="list-style-type: none"> 東京オリンピックに向けて、隣接する川崎がどう協力していくのか、未来の川崎にとって重要であるため、方針が決まり次第情報を開示して欲しい。